

お客様からよく聞かれる質問の一つが“末廣さんはスーツを一体何着持っているのですか？又ご自身ではどんなスーツを選ばれるのですか？”という質問です。持っている数でいうと春夏10着秋冬10着ほどの年間合計で20着ほど、着る期間としては2～3年ほど、ですので年間7、8着のスーツを毎年仕立てています。

イルサルトを創業したのが2009年ですので今までの合計でいえば100着近い数のスーツを仕立ててき

“革命的に変化”したスーツを選ぶ基準

イルサルトを創業し数年間は私のスーツを選ぶ基準は、“カッコイイかどうか？”ただそれだけでした。その年のトレンドを押さえた生地を選び、スーツだけでなくファッション性の高いジャケットパンツスタイルも積極的に採り入れていました。転機が来たのが2015年、友人が病気になり長期療養する姿を見て自分自身ももっと健康に気を配らなければいけないと思い、肉体改造を決意する時が来ました。生活習慣を見直し定期的にトレーニングをすることで見違える様な体のシルエットになりました。と同時にパーソナルブランド協会が主催しているセミナーコンテストグランプリ(以下セミコンと略します)に挑戦をしました。

経営者にとってスーツとは何か？

セミコンとは自分の体験したことを再現性の高いノウハウに変え、10分間のセミナーにまとめ発表するというものです。このセミコンに挑戦する中で“経営者にとってスーツとは何か？”の軸が段々と明確になり、自分自身の装いに対する考え方も変わっていきました。“経営者にとってスーツとは企業ブランドを創る最大のメディアである”イルサルトの届けたい価値を凝縮したこの言葉に辿り着いたのもこのセミコンの挑戦があったおかげなのですが、自分自身の装いや立ち居振る舞い、生き方に至るまで“自分がどう在るべきなのか？”を徹底的に考え、様々なことを変えていきました。

スーツを纏う目的とは？

それまでは自分のお洒落の表現であったスーツを、“自分ブランドを創り上げるメディア”と捉え直しました。メディアの最大の目的は“記憶に残すこと”“相手の記憶に強く刻み込むこと”です。目的が変わると手段が変わります、記憶に残す、メディアたるスーツにする為にはどうしたらいいのか？を考えた結果、最も人間の記憶に残りやすい“色と形”を意識するという方法に辿り着きました。具体的にいうと、色も形も常に同じなことが最も人間の記憶に残りやすく、たとえ形が変わったとしても色が同じであること、逆に色が変わったとしても形が同じであることが人の記憶に刻み込む為の最大のポイントであることに気づいたのです。

自分の伝えたいメッセージをスーツに込める

そしてもう一つのポイントは、形の力よりも色の力の方が強いということです。色の力を使うことが最も視覚的に相手の記憶にダイレクトに刻み込むことが出来るのです。又それまでは、服を使って“自分の印象を良くする”や“第一印象を良くするために”みたいなことを言っていたのですが、これは単なる表面的なテクニックに過ぎないことが分かりました。印象を良くするために服を着るのではなく、自分の本当に伝えたいメッセージを伝えざる為服を纏うこと、自分の纏う服は自分の生き様の表れそのものであり、自分がこう生きていくと決める決意表明ともいえます。

必ず存在する“運命の服”

一人一人の人生に相応しい“理想の服”があり、その理想の服を纏うことでより自分らしい充実した人生を送ることが出来る、そんな風に服に対する考え方も変化をしていったのです。私の場合は職業が“スーツ仕立屋”ですので、毎日同じ色を纏うのはなかなか難しいところがあります。色の組み合わせやご提案を自分の身体を使って表現をしたいからです。ですので色の力ではなく、私は形の力を使うようにして私の纏うスーツは季節に関係なくスリーピース若しくはダブルの二種類だけです。

ブランディングの為の装い

ただ昨年まではこの二つだけだったのですが、自分ブランディングを強化する為に今後は季節を問わず“スリーピース”のみを纏うことを決めています。ただ名刺の写真やウェブサイト、SNSなど一目で“経営者専門スーツ仕立屋 イルサルト代表末廣徳司”と認識してもらう必要のあるブランディングの為の装い所謂“勝負スーツ”は上から下まで毎回全く同じ装いにして、この色と形のパワーを最大限に使うようにしています。これが私の装いのポイントになるのですが、大きく分けて“春夏”と“秋冬”の装いのポイントをそれぞれ次にお話をさせていただきます。

“春夏スーツ” “秋冬スーツ” それぞれの装いポイント

◆ 生地

ウール素材の中でも春夏用の軽い生地、又薄めの色を選ぶことでシュの様な通気性のある生地、触って軽さや柔らかさを感じるのを選ぶのをお勧めします。ただこのモヘアの混紡率が高くな選ぶようにしてください。

◆ 仕様

サイズ感は春夏用、秋冬用で変える必要はありません。前述したことが非常に大切だからです。又春夏用スーツはジャケットの裏方が多いのですが、この“背抜き仕様”は、軽いこと、そして通気面、本来あるはずの裏地が無いことで強度が若干弱くなり、総裏つは総裏に比べるとシワになりやすいというデメリットもありまを使い分けられるのをお勧めしています。ブランディングの為にの、スーツの数ある程度お持ちでシーズン別に着る“仕事用”ことをお勧めします。又意外に思われるかもしれないのですが感を出すことが可能ですので暑い季節には清涼感のある貝ボタ



◆ 合わせ方

スーツは春夏と秋冬に分けての
スーツ仕立屋”を名乗る上

シャツ

シャツは春夏はメッシュ素材や生地の薄い涼しげなもの、秋冬は分厚めの暖かみのある生地を使い分けています。ただ色に関しては白かサックスブルー(薄いブルー)の無地シャツのみで柄の入っているものやカラーシャツは着ないようにしています。形に関しては、襟はセミワイドかワイドカラーで、ボタンダウンは選ばず、胸ポケットも必ず無い仕様にしてい

又ネク
清涼感
厚めの
ネクタ
ぶのは
類のみ
は基本
る様に